



# 鈴鹿市立愛宕小学校 学校だより

令和3年6月23日 No.4

【教育目標】  
知・徳・体の  
調和がとれ  
主体的・協働的に  
行動できる  
児童の育成

## 新しい学力観・新指導要領に即した授業改善を進めています！

まん延防止等重点措置は解除されましたが、県下にはリバウンド阻止重点措置が発出され、学校でも感染拡大防止対策を引き続き徹底しています。合わせて、熱中症を防ぐため、人との距離がとれる場合はマスクを外させたり、登下校で帽子や日傘を勧めたりしています。

さて、先週、1年生の子どもたちが運動場の土で遊んでいるのを見かけました。生活科の授業です。しばらく参観していると、子どもたちと先生とが見事に学びを広げていく様子が見られ、感心するとともにとても嬉しくなりました。



子どもたちの話を丁寧に聴き取り、その思いに共感する教師の姿によって、子どもたちの意欲が高まってきました。そして、子どもたち同士の対話的な学びがどんどん広がっていきました。



学校ホームページで、子どもたちの活動の流れについて詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。

昨年度から施行された新学習指導要領では、学習の主体者は常に子どもたちです。もちろん、教師は学習のねらいを明確にもっており、そのための場の設定を行います。授業では子どもたちの中にあるもの、生み出したものを見つけ、認め、価値づけ、広げる役目を担います。それによって、子どもたちの内面に「やりたいこと」「考えたいこと」を生じさせるのです。今回の学習では、教師がどろ団子の面白さに心から驚き、共感し、称賛することによって、他の子どもたちの心に見事に「…したい」を生み出していました。そうなったら、後は子どもたちがどんどん自分たちで学んでいきます。自分で考えをもってやってみると、その結果、上手いかない子、上手いく子がでてきます。(他者との違いが生じます。)すると、他の友だちの様子を見て考えます。「ねえ、どうやったの?」「どこから土もってきた?」と対話が始まります。主体的・対話的な学び方が、1年生でも立派にできています。もともと人には学ぶ力があるのです。それを育てていくのが教育だと思うのです。

この後、丈夫できれいな団子を作るために、子どもたちが土の粒の大きさの違いや、水の含み加減に関心をもって追求していくことを教師はねらっています。それは、4年生の理科「雨水の行方と地面の様子」、5年生の理科「流れる水のはたらきと土地の変化」、6年生の理科「土地のつくりと変化」(土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくっていること)の学習へとつながっていく内容であるからです。こうしたその教科等の本質に沿った学習内容を伴ってこそ、深い学びが生じたと言えます。

「主体的・対話的で深い学び」が、これからの授業・学習のキーワードです。子どもたちの自ら学ぶ姿を、みんなで支え、応援していきたいですね。

# 職員危機管理研修会を行いました

6月16日(水)、放課後に職員危機管理研修会を行いました。

まず、これまでの学校内での子どものケガや事故を検証し、事前の備えや職員の対応を振り返って課題や改善策について話し合いました。次に、学校で作成している危機管理マニュアルの内容を確認し、不審者対応について意見を出し合いました。

## 【これまでの生活事故を振り返った話し合いより】

・事故の状況や経緯等をできるだけ早く保護者に伝えられるように、職員で連携して情報収集を行う体制を確認しておきたい。

・各教室の汚物処理セット等の保管場所を全校で統一して、誰もがすぐに使用できるようにしておく。

・止血、心肺蘇生は、澁みなくできるように訓練をしておく。

・事実確認や再発防止等のために事故現場の写真を残す必要があるが、他の子どもたちがいる場合、一刻も早く片付けて不安を小さくすることも大切だ。カメラ等の携帯が必要か。

・事故があった場合、他の子どもたちにどこまで伝えてよいのか迷うことがある。子どもたちや保護者の気持ちを第一に、事故に応じて、その対応について全職員でしっかりと打ち合わせをすることが大切だ。

## 【不審者対応についての話し合いより】

・不審者用のさすまたの数を増やせないか。また、置き場所も最適などころを検討し直したい。

・黒板用定規、机等、不審者を食い止めるためのものを確認しておく。また、各教室の施錠を子どもたちだけでもすぐにできるよう訓練しておく必要がある。

・中庭の樹木を減らし、見通しをよくしておくことも大切ではないか。

・来校者に対する挨拶は有効である。「こんにちは。どちらへご用ですか。ご案内します。」という声かけは抑止につながると思う。

・不審者が校内に入った時の放送連絡の仕方を確認しておく。

・夏休み等の時間を利用して、危機管理マニュアルを基にした実地訓練をしたい。「子ども役」「教師役」等をつくり、実際に動いてみる中で、改善点を指摘し合う機会をもつことが必要だ。



これまでの生活事故の原因や対応について話し合う先生たち

危機管理は、(1)事前の備え、訓練・研修、(2)事故・災害等の発生時の対応、(3)事後の対応・再発防止策の実施という3つの場面について、日ごろからしっかりと考えておくことが大切です。愛宕小学校では、これからも危機管理マニュアルを不断に見直し、それに基づいた訓練を計画的に実施していきます。

# 野菜やお花の栽培活動をしています

梅雨の時期を迎え、各学年や委員会が育てている野菜やお花が大きく育っています。まつかぜ教室では、「まつかぜファーム」で様々な野菜の栽培に取り組んでいます。子どもたちが、一人ひとり自分で育てたい苗を選びました。地域コーディネーター・学校支援ボランティアの落合さんに栽培の仕方を教わり、毎日一生懸命お世話をしています。

栽培のお手本として、隣の畑で落合さんが育ててくださっている野菜たちは、ぐんぐん大きくなり生き生きとしています。それを見習って、子どもたちも肥料をあげたり、支柱を立てたり、主体的に活動しています。収穫後の活動も、みんなでいろいろ計画しているそうです。楽しみですね。

